
僕の妄想と夢魔

荒野 京介

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の妄想と夢魔

【Nコード】

N6313Y

【作者名】

荒野 京介

【あらすじ】

夢魔が嫌な少年に食いついて妄想を叶える話。
可哀想な（主に少年が）物語である。

プロローグ(前書き)

初投稿です。高1のバカです。長く続けられておもしろい話
になったらしいなあ。てか俺がする！

プロローグ

プロローグ

この世界には夢魔と言う悪魔がいる。いわゆるサキュバスだ。夢魔は人の妄想を叶えてその者の幸福を餌として生きている。叶えた妄想の大きさが大きいほど叶えた夢魔の寿命は延びる。そして長い年月を生きていくのだ。

夢魔にあつた者は幸せになれるしかしその者の妄想を叶えない限り夢魔は元の世界に帰れないし寿命も縮まる。

このようなルールがたくさんあるらしいのだが今はめんどくさいので他のややこしいルールは省いておこう

いやっ教えるのがめんどくさいって事はない。断じてないんだ。うん、

まあ軽く言っておくと妄想通りにしないと即死とか もっとややこしいルールです。 などなど。

てか・・・もう実際ルール聞いた時僕が理解できなかったただけなんだけどね・・・

まあそれは置いて・・・

この物語は最悪な少年＝僕こと中村弓弦なかにわいゆうじゆんに食いついてしまった可哀想な夢魔の物語である。

さてと、僕が夢魔を呼び出した最初の妄想の話をしよう。

？ K O K っ て 泣 け る 言 葉 。

「ん〜あれ？なんだっけ？」

僕は頭の中をフル回転させて妄想の続きを考えた。

妄想の途中で変なこと考えると道がそれて話しが続かなくなるんだよなあ……

さっきなんて女の子とファミレス行っつて所を妄想したらこの前ファミレスで友達と馬鹿話してたことを思い出して女の子と何を話してるのかも忘れちゃったし。

最初から考え直すか…… L e t , s 妄 想 t i m e ！ ！

「好きです！付き合ってください！」

僕は顔を真っ赤にさせて女の子……う〜んまあ音夢ねむ

っ て 事 に し て お く か

音夢に向かって告白をした。

「嫌です！あなたキモイしオタクだし顔タイプじゃないし。」

うん〜っ言われた……えっ言いすぎじゃねっ!？

この台詞僕が恐れるK O K だ!？うう〜恐ろしい。

あっ!？KがきもいOがオタクんでKが顔ダメだし。

えっ別にW K O でも良いじゃないかって？

それだとなんか社会に出てくる団体みたいで。

そんな場合じゃない!

「……あつ……えーっと。それだけ？」

「えっまだ言っつて良いの？O K 任せて!？」

「イヤッいいっす！任せてないし！僕のH P をもう O に近いから。」

「あつそ、じゃ、これで。」

そして音夢は走り去っていった。

ある一言？を置いて

「うえっー」

そして僕の恋は散った。

．．．．．あー泣ける

妄想なのに涙がこみ上げてくるよ。

ありゃ．．泣いてる僕！？

妄想で泣いてるよ！？現実で振られたら僕死んじやうんじやないの
！？

そう思うくらい泣いていた。

（明日も学校だし寝るかな。）

そして僕は夢に落ちていった。

？ 正妄って起きたら嬉しいよね！

次の日僕はいつものように……遅刻していた。

「ん〜中村……お前今月で4回目だぞ、ついでに今日は6月5日だ！」

そしてついでに1日は休みだったな。」

「へーいすみません。」

「まあ中村なんてどうでもいい。そしてみんなに良い知らせがある！」

「えっ？！先生それはひどいよ！僕も生徒なんだから少しぐらい叱るという

事をしてくれても良いと思いますよ！」

「弓弦はドMなの？……」

おっつ……やっちまった……つかまって欲しくて。。。

「おいおい、僕のどのあたりがドMだとペツタンコの美紀……グベエツ」

痛い！こめかみが頭が細長くなったんじゃない！？

ほしかわ 星川 みき 美紀の得意なゴリゴリげんこつだ。

「美紀……どうもすみませんでした。」

僕は今月で一番の土下座をした。

まあまた記録を塗り替えられるかもしれないけど。

「んっ謝ったからよろしい。なんて言うと思った？」

笑顔が恐いと思った瞬間。

「グハツ」

溝うちを思いつきり蹴られた。

「ふうーこれですつきりした。今までのストレス発散できたわ。」

「僕はサンドバックか！？てか先生なんでこの暴力現場をスルーするの！？」

「んでみんなに紹介しよう！転校生の神栄 かみざかえ 音夢さんだ！」

「先生まだスルーするの！先生実は僕のこと生徒だと・・・えっ
言葉を失った。転校してきたのは女の子でしかも
昨日妄想してた女の子そっくりだ。」

そして彼女の顔を見て僕は涙を流した。

あれ？おかしいなまだ振られてないのに涙があふれてくる。

「おっおい！中村スルーしすぎだから泣くな。」

「いやっ先生気にしないで話しかけると心がズキズキするから。」

そして神栄さんに顔を向ける。

「うえー」

えっデジャブ！？おいおい・・・正夢かよ・・・いやっ正夢？

しかし今の僕の心にはその言葉？は核兵器並みの凶器だよ神栄さん。

「ちよつと、屋上に行つてきます。。。」

「弓弦！？ちよつとどうしたの？」

「き・・・気にしないでくれ・・・ちよつと終わりにしたいんだ。」

「弓弦・・・行つてきなさい！」

「うわーん！酷すぎる！うわーん」

ガタガタ（立ち上がる）・・・トタトタトタ（走る）・・・ズテッ

（こける）・・・ヒクッ（泣く）・・・ガラガラ（引き戸を開けて）

・・・
ウワーン

僕は逃げたのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6313y/>

僕の妄想と夢魔

2011年11月20日09時34分発行